

第2期 猪名川町介護保険事業計画

4月から65歳以上の介護保険料を見直し

高齢者が住みなれた地域で暮らしていくために

デイサービスで楽しいひとときを過ごす施設利用者(天河草子)



高齢者の現状と将来推計
本町の人口は、平成14年9月末現在2万9604人で、そのうち65歳以上の人は4216人となっており、高齢化率は14.2%です。平成19年度の65歳以上の人は5523人と、現在に比べ約1300人の増加が予想され、高齢化率は18%程度と年々高くなります。(表1)

介護認定者数とサービス利用者数の推計
介護認定者数は、平成14年9月末現在で588人ですが、15年度には670人と急増することが予想されます。その後は、19年度まで毎年50人程度の増加が予想されます。この数値は、65歳以上の人口の14.5%にあたります。また19年度の介護認定者数は856人と想定され、そのうち居宅サービス(訪問介護・通所介護)

介護保険制度は、平成12年にスタートし、今年で3年目を迎えます。現在第2期計画(平成15年度から19年度)の策定を行っています。また介護保険料については、3年ごとに見直しを行うことになっており、新たに平成15年度から3カ年を見通した保険料の設定について、現在介護保険運営協議会において協議されています。これら第2期介護保険事業計画の策定にあたり、現段階における概要をお知らせします。

施設サービスの利用者数は460人、施設サービス(特別養護老人ホームなど)の利用者は203人と合計663人(介護認定者数の約80%弱)の人が何らかの介護サービスを受けると考えられます。(表1)

介護給付費

平成13年度における介護給付費は、居宅サービスの場合、2億2587万9千円、また施設サービス(老人保健施設など)では5億1215万7千円となっており、17年度に

は13年度に比較し約47%増の給付費が見込まれます。一方、平成13年度における一人あたりの給付費は、居宅利用者で1カ月約8万3千円に対し、施設利用者では月33万2千円が支払われています。(表2)

表1 介護保険の利用者数 (高齢者数)

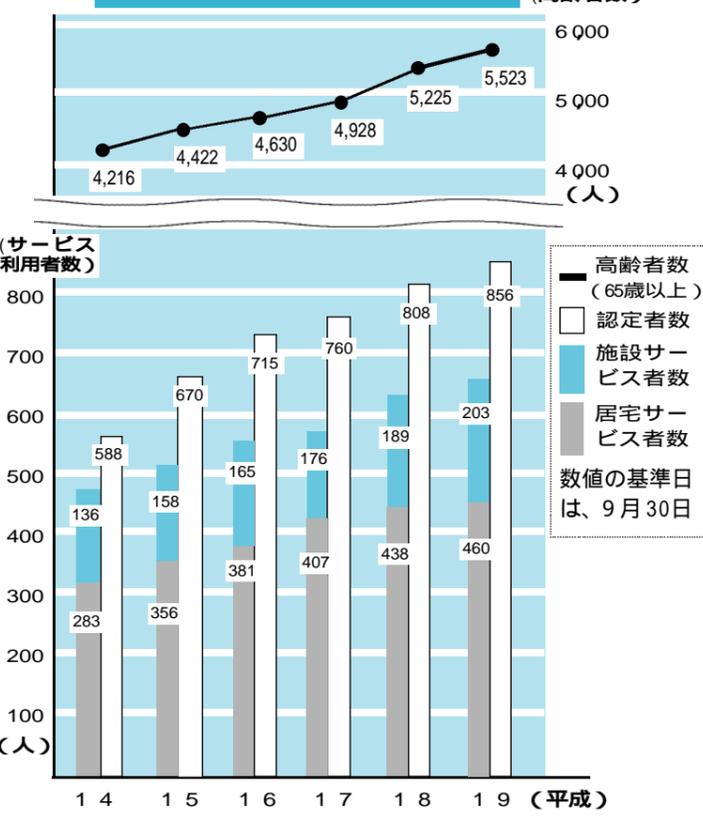


表2 利用者1人あたりの給付費(平成13年度平均)

居宅利用者 1カ月 約83,000円
施設利用者 1カ月 約332,000円

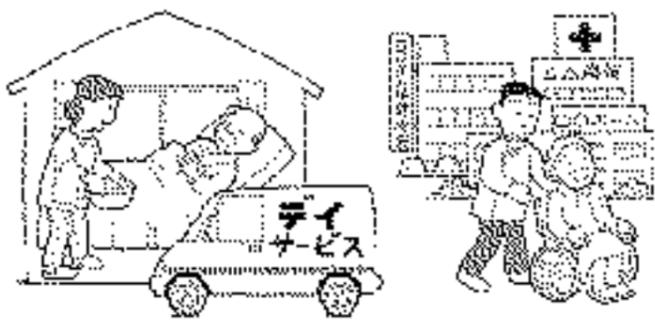


表3 保険給付費の推計 (単位: 万円)

	平成15年	平成16年	平成17年	計
居宅サービス	30,148	32,230	34,394	96,772
施設サービス	61,888	64,796	68,608	195,292
居宅介護支援	3,175	3,390	3,624	10,189
福祉用具購入	280	298	314	892
住宅改修費	1,483	1,597	1,705	4,785
高額介護サービス費	738	770	822	2,330
審査支払い	159	169	180	508
計	97,871	103,250	109,647	310,768

介護保険料の改正
65歳以上の人の介護保険料は、住んでいる市町村によって異なります。介護保険料は、その自治体のサービス水準を反映しているため、サービスが充実していれば保険料も引き上げられることとなります。猪名川町では、特別養護老人ホーム(天河草子)の建設に続き、昨年は老人保健施設(せいふう)が設けられるなど施設整備も進み、これらのサービス利用者の増加がさらに見込まれることから、平成15年4月から65歳以上の介護保険料の見直しが行われることになっています。

現時点における、介護保険事業にかかる費用の見込額は、平成15年度から同17年度の3年間で、合計31億768万円となり、第1号被保険者(65歳以上の人)の保険料基準額は、月額3280円(現行2800円)と試算されます。ただしこの金額は、今後、国による介護報酬改定、調整要素が多い中での目安となる金額です。最終の保険料は、平成15年3月議会で諮られることとなります。(表3)

適正な運営をめざす
介護保険は、要介護高齢者などができるかぎり住み慣れた地域において、自立した生活を送れるよう支援する制度ですが、施設サービスを指向する傾向が強くなっています。こうした傾向がそのまま続くと、保険料の高騰を招き介護保険制度が立ち行かなくなってしまう可能性があります。

介護保険の適正な運営がなされ、介護保険サービスと介護保険料のバランスがとれるようにするために、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らす高齢者の増加をめざすことが大切です。

問い合わせは、保険住民課(766・8700)へ。